明治四十年九月十五日發行
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

是故に我等召されてキリストの使者となれり。我等キリストに代りて汝等が神に和かんことを爾曹に希ふ。　哥林多後書五、二十

明治の女子

【第四巻第八號】目次

論説

基督的生命……植村正久
勇猛犠牲の精神……マスター、オブ、アーツ、シエルウツド、エディ

講習會講演

腓立比第一章第二章……柏井園
同　第三章……丹羽清次郎

雜纂

サマリヤの女……柏井園
植村先生の説教を聴く……粥地みどり
夢……堺伊代子

通信記事

盛岡女子青年會便り

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子

「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する機關雜誌也。
「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢一部郵税共金五錢とす。
日本女子基督教青年會は青年女子の衛生、社交、智識、靈性上の發達を計るための團體也。
日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　エム、エ、ホイツトマン
副委員長　岡見惠子
記録書記　エ、ジー、ルイス
萬國基督教女子青年會同盟委員　河井道子
會計　サラ、エリス
明治の女子編輯　松田道子

東京在住委員
津田梅子　渡部初子
エ、ピー、ウエスト　井上友子
宮川壽美子　ジ、エム、フイツシヤー
平野濱子

地方在住委員
大坂　ケー、ツリスツラム　同　エル、ハミルトン
神戸　ピー、ヘルム　京都　ジ、エス、フエルプス
仙臺　エル、ザフルー　名古屋　イ、エム、ソーパル
弘前　エス、ジー、ゲイン　函館　エム、プラオンロ
日本女子基督教青年會幹事　エー、シー、マクドナルド
同副幹事　エス、シー、フキツシヤー

明治四十年九月十三日印刷
明治四十年九月十五日發行

發行兼編輯人　東京市麴町區土手三番町十五番地　エー、シー、マクドナルド
印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎
印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治の女子 第四卷第八號 明治四十年九月十五日發行

基督的生命

學生傳道に於て高調せらるべき理想として

植村正久

基督敎は生命なり。耶蘇基督に於て裕かなる新しき生命なり。『我が來るは羊をして生命を獲且裕かならしめんがためなり』、（約翰十の十）。基督なき生命は寂寞、單調にして甚だ貧しきものなり。或る人の言へる如く罪の下に在る總ての靈魂は、悽愴く、恐ろしきまでに熱烈なる矮小の狀態に傾きつゝあり之に反し多方面にして趣味に富み、内容の極めて裕かなるは基督的生命なり。

基督に於ける生命の富源無盡藏なり。泉の常に湧き、其の流れ彌々新たなるが如し。基督敎は裕かなるが故に常に新たなる生命なり。『人基督に在るときは新たに造られたるものなり。舊きは去りて皆新らしくなるなり』（哥林多後五の十七）基督敎の日に新なる有樣を知らんと欲せば其の一端は使徒約翰の語に見えたり、曰く『兄弟よ、我汝等に新しき誡めを書き贈るに非ず、即ち始めより汝等の有てる舊き誡めなり。此の舊き誡めは始めより汝等が聞きし所の言なり。然れど我が汝等に書き贈るは又新らしき誡めなり。此の事は彼に於ても汝等に於ても誡めなり。其は今暗きは稍や過ぎて眞の光輝やけばなり』。福音は生命の開展するに從ひて常に新たなり。其の事業と敎訓とを知ること愈熟するに從ひて基督は新たなり。基督既に新たなれば、之に基ける愛の意義及び其の内容亦新たならざるを得可らず。總ての道義眞の光に輝やかされて、其の色神々しく鮮かならずんば有らざるなり。

基督敎は常に開展し永久に成長する使命なり。之を

信ずるものはステレオ版の傳說を誦ずるの必要絕えて有ることなし。自ら基督教の意義を發見し、常に新たに之を己がものと爲すは其の忌避すべからざる責任なり。

此の驚く可き生命を基督教世界實際の狀態と對照し來れば非理想と逢ふもののみ多く、吾人は古へのイスラエル人の王の一人と共に。「ギリアデのラモテは我等のものなるを汝等知らずや。然るに我等はスリヤ王の手より之を取ることをせずして默し居るなり」と自白すべく感ずるなり。靈的生命荒れ廢れて其の富を空うせられ其の未だ開發せられざるもの甚だ多し。殊に個人的に之を考ふれば、事實明白にして遺憾限りなきを覺ゆ。

「スリヤ王の手より之を取ることをせずして默し居る」の理あらんや。「エホバの民皆豫言者とならんこと又エホバの靈を之に降し給はんことこそ願はしけれ」と、モオセが叫べる如く基督に忠誠ならんと欲するものは一齊に奮起して此の生命の開拓に盡力せざるべからざるなり。

獨逸の或る學者の新著に耶蘇は一個のレイメンに過ぎざりしと言へり。基督は神學者にあらざりき。祭司にあらざりき。教職を奉じたることなかりき。一個のレイメンとして傳道をせられしなり。レイメンを日本語に移さんと試みるとも、適切なる譯語を發見するを得ず。レイメンに對當する語なきこそ僥倖なれ教職に在るものと然らざるとを區別するの禍ひを醸すことなく、日本の基督教徒は傳道を以て各自の負擔と覺悟しエホバの民皆豫言者たれとモオセの祈りし如くならざる可らず。

ゼベダイが二子の母は彼等を携へて耶蘇のもとに至り、其の一人を主の右に、他の一人を其の左に座せしめんことを願へり。事相同じからざれども、傳道事業の現狀之に類するものなきに非ず。企業的志望燃ゆるが如く、甚だしきは傳道を野心の犧牲に供するものさへあるべく、所謂運動に心を專らにして、靈的の事業を唯だ機械的に實行せんと試み、拔目なき懸引きのみ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

によりて神國を建設せんと擬するにはあらずや。基督は之に向ひて「汝等も此の盃を飲み得るや」と反問せらるなるべし。是は吾人の深く反省すべき所なり。

健げなる一青年走り來りて耶蘇に問ひけるは、「善き師よ、我窮りなき生命を嗣ぐために何を爲すべきや」(馬可十の十七)と。基督信者の傳道事業此の青年の志と共に甚だ好し。然れども窮りなき生命は嗣ぎて受く可きものにあらず。自ら何等の勞する所なく、祖先の遺業を其の儘に相續するが如きは永生を全ふするの道に非ざるなり。基督教は「總領の順祿」たるを以て滿足せず。其の徒にして之に滿足せば、既に腐敗したるなり。鹽既に其の味を失へり。棄てて人の踏むに任かすの外なかるべし。歐米の基督教も深く此所に省みる所なかるべからず。殊に日本の基督教は之を以て自ら警め、耶蘇の聖靈の啓發に由りて愈新らしく靈的の開拓を行ひ、主の盃を飲むの精神を以て傳道の任務に從事する要するをなり。

基督教はゼベダイ母子の如き運動によりて成功せず彼の富める青年の如く容易に之れを相續することを許さず。眞に基督を代表するに非ずんば、此の大任に當るべからざるなり。「汝我を世に遣はせし如く我も彼等を世に遣はせり。我彼等のために自らを潔む。是れ眞理によりて彼等の潔められんためなり」(約翰十七の十八、十九)。吾人は耶蘇の世に遣はされし如く、自らも世に遣はさるべし。基督の如き精神、彼の如き抱負彼の如き獻身、彼の如き十字架を以て世に立つの覺悟なかるべからず。彼の如く遣はさるるものは彼の如く成功すべし。基督は人を救はんがために自らを聖別せり。彼等の潔められんがために自らを潔むと言はれしにあらずや。此所に遣はさると言はれしに注意せよ。此は高く優れたる地位に居るもの特種なる任命を帶びて、彼の己の如くなせらるべきなり。吾人は故に皆潔めらるゝを要す。各自らざる人々のために爲すべき事業あるを示せりと解釋基督的の生命を耕すべし。基督的の生命は獻身聖別にあり。獻身聖別は犧牲を意味す。未だ耶蘇の如く自らを忘れられし人有ざるなり。然れども未だ彼の如く自

らを宣傳せしものなし。曰く「我は心柔和にして謙るものなれば我軛を負ひて我に學ぶべし」。吾人は耶蘇を以て模範となさざるべからず。「汝等の召されたるは之がためなり。其は基督汝等のために苦みを受け、汝等をして己れの跡に隨はしめんとて、式を汝等に遺し給へばなり」（彼得後書二の十一）。「基督に居ると言ふものは彼の歩みし如く歩むべきなり」（約翰一書二〇六）基督的の生命は電光の如く輝く。其聲雷の如くなるべし。基督的の生命は勢力甚だ大なり。靈性の奥深く生命の熾んなるものは他の靈魂に徹底するの力を有す「淵々相應ふ」。我が心に基督的の生命活躍するものあらば、人をして覺醒せしめ、反省せしめ、理會せしむることを得べし。遊子他郷に流離ひて今は夢にだも之を思はず、唯だ惡しき友と交り、罪ある行爲に穢れつゝあり。一日彼は忽然として懷郷の感に撃たれ、悵然天の一方を眺めて、太く嘆息せり。彼は圖らずも新たに其の故郷の土を踏み、其の山河に遊び、其の父母兄妹と眠食を共にして、歸り來れる人に遇ひたるなり。親しく天の家郷に往來し、其經驗鮮やかに喜ばしきものあらんには、誰か「我が父の家には、食物餘まれる傭人幾人かあるに、我が餓えて死なんとするは何事ぞや、いざ起ちて歸らん」と叫然開悟快心せざるものあらんや。是れ傳道の秘訣なり。

如何にせば此の基督的生命に達することを得べきか。「基督の愛我等を勵ませり。我等思ふに一人衆の人に代りて死にしは生者をして此後ち己がためならで己に代りて死て甦りしものの爲に世を過さしめんとてなり」（哥林多後五の十四十五）。人に代り死にて復活せし基督を認めざれば、己がためにするの生命を擲ちて、獻身犧牲、彼のためにするの新しき生命に達すること能はざるなり。我等のために十字架の贖をなせる耶蘇基督を知るは、我等のうちに基督の活くるを經驗する所以の順序なり、十字架と其の救ひの意義を理會し、深く之を味ふにあらんずんば、基督我に於て活くることとなし、基督教は代人的犧牲の宗教なり。有神論、靈魂不滅説、山上垂訓の道徳の如きに於ては基督教は之を他の宗教及び

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

學説と共通せり。之を以て其の特徵なりと云ふを得ず基督教の他と異なりて特殊の宗教たる點は十字架の贖罪なり。「羅馬帝國治下の教會の任務」の著者博士どッグ曰く、「古代のノスチックは十字架をホロスと名づけたり。ホロスは境界線の義なり。ノスチックは奇なる人民なり。然れども此の點に於ては其の見解正しきを認む十字架の此方なる歴史は其の彼方に於けると全く異なり。又異ならざるべからず。十字架を荷へるものは他の場合に於ける人よりも之を荷へる程度に於て、より善き公民、より善き哲學者、より善き人なり」と。誠に然り。吾人をして使徒パウロが忠誠適切に解釋したる基督と其の十字架の意味とを會得し、贖ひの恩寵と慈愛とを味ひ、之を感覺して、之に歡喜し之に奮起せしめよ。吾人をして彼がために生き、又彼がために死なしめよ。死するも生くるも吾人もし彼のものならば、以て盡く足れりとすべきなり。（萬國青年大會講演集より轉載）

勇猛犧牲の精神

マスター、オブ、アーツ　シエルウッド、エディ

基督の我等の犧牲の精神に訴ふ、基督の訴へしもの此精神なればなり。彼は云へり「一粒の麥地に落ちて死なずば唯一粒にてあらん、若し死なば多くの實を結ぶべし」かくて彼は其前に置かれたる喜の爲に十字架を忍びたり。

彼が五百人に見はなされ十二人に捨てられ、特に其一人は彼を拒むべく出で行き、一人は彼を裏切り、殘る十人は彼を見すてゝ逭げ行き彼唯一人力なげに寂寞たる長き丘上を辿り行くをみるとき我等は彼が形影相弔し、其生涯は耻辱の十字架に終りてさながら失敗なりと思ふなり。麥は地に落ちて死したり。然れども今日世界人口の三分の一は既に基督教徒となり、五十餘國は基督の名を承認し、而かも十字架は尚進みつゝあり。

使徒パウロを動かし基督の足下に其生命を献げしめしもの亦此英雄的犧牲的の精神に訴へしによる。鞭たれ、石にてうたれ、迫害せられ市より市に追ひやられて彼は終に羅馬に於て首斬られたり。彼は地に落ちて死したり。而かも羅馬帝國は基督敎化したり。ウヰリアム、ケリーに訴へしもの亦此なり、九年間靴店に働らき世界全圖を其前にかゝげ其心は愛の焔に燃えたり。英國の船舶に乘じて印度に渡ることを許されず、印度に上陸しても傳道事業に從事するの許可を得ず、彼は自から手を下して住ふべき小舍を建て初めたり。彼は藍の栽培者として勞働しつゝ土語を學びたり。かくて殆んど四十年間セランポオアにありて日夜勤勞し政府に傭はれて敎師となり一ヶ月千餘圓の收入中僅に三十圓を以て生活し千餘圓は悉く印度敎化の爲に投じたり。彼と其同僚は印度の各國語に聖書を飜譯せんと旦夕黽勉したるが終に彼の死に先ちて其業を完成し二十四個の方言に聖書を飜譯したり。しかも其中の一人は此を以て足れりとせず非常の代價を拂つて聖書の支那譯を成就し之を出版し支那人民に送致したり。一身貧に甘んじつゝも五十餘萬圓を傳道事業と基督の道の爲に献げてウヰリアム、ケリーは地に落ちて死したり、然れども今日印度に三百餘萬の基督敎徒あり、最近の十年間に新敎に屬する印度の基督敎徒は五割の增加をみたり而して十字架は尙も駸々として進みつゝあり。

此英雄的犧牲的精神に訴へられてチャドソンは動きたり、かの才華爛熳たる靑年學生は其野心を基督の足下に打捨てたり。見よ彼はビルマに上陸し其若かき妻と共に海岸より步み行きたるがこれビルマ全國に於て最も憎まるる人となる爲めなりき。彼は十七年の苦痛を經て聖書の飜譯を成就したるが或は牢獄、鐵窓、屋根裏に於て之をなしたり。みよ彼は二年間熱帶國なるビルマの獄中に一百の獰惡なる囚人と伍し五組の桎梏を身にあてられ熾くが如き暑氣の中に横はれり、桎梏の痕跡は其死に至る迄存したり。かくて一度はビルマに勝利を齎らすべき軍門の血祭として犧牲とせられんとせしがこれは免るゝを得たり。彼の死するや孤獨にし

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て一片の祈すら聽かずして海中に葬られたり。しかも彼は云へり「人々は余を以て老人と思はん、而かも何人かよく世を辭するの時更に高かき希望を有するものぞ、更に輝ける前途を有するものぞ、人生に對して更に大なる愛慕を有するものぞ」と。彼の村の小さき教會に彼の記念の爲めとて一個の扁額あり、記して曰く、彼の誕生地はマルデンなり、彼の墳墓は大洋なり。ビルマ人を教化したり、而してビルマの聖書は彼の紀念物なり。彼の名は天にしるさる」と。今日ビルマに十萬の基督教徒あり、而して十字架は尙駸々として進みつゝあり。

リビングストンに訴へしもの亦此なり、彼は亞細亞に遣はさるゝには才識短に過ぎ、亞非利加に行くには恐らく適任以上なりと觀られたり。見よ彼は三十年の長歳月間大概徒歩にて險難三萬哩を跋渉し、其用品は盗まれ、其藥品は竭きし時には舁床を以て無感覺の中に己を運搬せしめたり。遂に千八百八十七年スタンレーは彼を發見し全歐洲は彼に譽を歸せんとて待ちつゝある事を告げたり。然れども彼は暗黑大陸の中心に堅く其面をむけたるものゝ如く「我は我が事業を完結せざるべからず」と云へり。數日の後、彼唯獨りとなれる時其日記に記して謂へり、「我が耶蘇、我が王、我が生命、我が全體、我は我が自己を爾に靖獻す。我を受け容れ給へ、而して惠ある父よ此年暮るゝに先ち我が事業を完結し得る事を許させ給へ」と。彼の困憊は怪しむを須ゐず、其齒落ち、藥品奪はれ、血液の缺乏によりて不知不識の中に最後に近づき、跪づきて亞非利加の爲に最後の祈をなしつゝ死しぬ、暗黑大陸の爲に今一度祈らんとて其疲憊せる身體を漸くもたげながら死しぬ。デビド、リビングストンは地に落ちて死したり、然れども彼は文明と基督教に對して百萬方哩を開放したり。彼は一千萬の奴隷より桎梏を取り去りたり、幾の太陽は暗黑大陸の上に昇りたり、而して其昇る旭日の光りは永久に消え失すまじ。

新島を動かせしもの亦此英雄的犧牲的精神に訴へしによる。余は昨再び彼の傳記を讀んで涕泣したり、智

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

識に淑せる雄々しき少年が漢籍及蘭語を我物にせんとて奮闘せるを見よ、數學と奮闘し、英語と奮闘し、終には己が邦國を高むるに足る何物をか學ばんと志し一命を賭して日本を出奔したり。余は亞米利加に於て數年間耐え忍びて準備をなしたる後、日本に歸朝するに及ばずして死しはせずやと憂懼しつゝ瑞西の客中に顚轉する彼を見る。彼は體力盡き果て我が最後も迫まれりと思ひながら書き下せり。『此紙片を發見する者は我が親愛なる故國日本の爲に祈れ。日本に對する我が計畫は破られん。然れども我は言ず、神は驚くべき事業を彼處に遂げ給はん。主は必ずや幾多の眞の基督教徒を興し又尊き我が愛する故國を興し給ふべし』。死に臨んで彼は前に日本の地圖を擴げ傳道に對する將來の計畫を指示しつゝ最後に『平和、歡喜、天國』の數語を發して逝けり新島は地に落ちて死せり、されど十字架は進みつゝあり。

余は今日新島此處にあつて日本の青年と論辯し能ひしならばと感慨を催ふす。彼は其美に於て王者を見たり、其主面を仰ぎたる人なり。余は又リビングストン、ケリー、ヂャドソンが各其愛せし國土の爲に論辯し能ひしことを望むものなり。余は耶蘇が『汝我を愛するか、さらば我が羊を飼へ』と告ぐるの時我等がその御聲を聞き得んこと及び耶蘇御自身の御顏を仰ぎ見んことを望むものなり。

ガリバルヂィ、伊太利の青年に向つて『兵士等よ、饑と寒と襤褸の外何物も汝等に與ふべきものなし、國を愛するものは來つて我に從へ』と叫びし時數千の伊太利の青年は死を決して立ち伊太利を救ひ其自由を回復せん爲に熱中したり。過ぐる戰役に於て日本人が旅順口を取らんために決死隊を募りし時數千の勇者は孰れも死を覺悟して競ひ出でたり。此れ邦家の爲なり、基督の爲にも亦然るを得ざらんや、日本の青年は國民を救はん爲に蹶起すべし。全亞細亞は覺醒しつゝあり。日本は其指導者となれり。支那は數世紀の睡眠より醒めつゝあり。印度は復活の狀態にあり亞細亞は一團なり、而して我等は基督にありて一なり。共同の敵に對して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

は區々たる嫉妬爭鬪の隊なきなり。戰は行はれつゝあり。我等は其全時を此事業に費やし其生涯を基督の服役の爲に靖獻する人物を要す。過ぐる戰爭に於て軍需品を供給する爲に內にありて實務に從事する人を要したり、然れども國民を救ひしものは大山、東鄕の如き戰線に出でたる人々なりき。我等は基督の爲に基督教事業の戰線に闖入する人物を要す。基督は我等の英雄的犧牲的精神に訴ふ。我等は自ら立つて恥辱と苦痛と死の十字架を負はざるべからず。基督は我等に十字架を與ふ、而して後に王冠を與ふ。國家を愛し、又主を愛するものは深く彼に從へ。我等をして起つて亞細亞を基督に服せしめよ。我等それ〴〵己の大學或は己の邦國に歸り行く時屑々たる國民的嫉情若くば區分を一掃し唯眼中失はれたる世界と十字架の救主を見て世界を耶蘇基督に服せしめんことを思はしめよ。我等をして起つて此世界救濟の爲に偉大不斷の盡力に入らしめよ。然れども苦痛なくして救はるゝ能はず。十字架は紅なり、世界が救ひ了はらるゝ迄紅なるべし。

神の御子先ちて戰へり、
從ふものは誰ぞ、誰か彼の隊列に加はるものぞ。

（萬國青年大會講演集より轉載）

御斷り

縱來本誌編輯の事務に鞅掌せられし原口竹次郞兄は今般遊學の爲め渡米せられ候に付編輯事務上に大恐慌を來し候爲め本號は期日には遲れ材料には乏しく只量よりは質を撰ばるゝ諸姉の寬恕を乞ふより他に致し方なき仕誼と相成候併し明治の女子はいつまでも此狀態に滿足せずして更に飛躍し少くとも現狀維持に務め可申候間本號のみは例外と思召下され度願上候尙原口兄は彼の地より盛に通信を送らるゝ約束に候へば近き將來に於て諸姉の期待を滿足有之べくと存候右御斷旁々

假記者謹白

讀者諸姉机下

講習會講演

腓立比書

柏井園先生講義

第壹章

抑々此書の現生れ年代に就きては、其說區々にして或者は紀元五十六年頃に、書かれたりといひ、或者は紀元六十年頃なりといひて、某主張する處一ならず。然れども後者の方、一般に信を於くに足るものゝ如し。此書が使徒パウロに依りて書かれたりと云ふは、何人も認むる處なり。而して該書は、パウロの羅馬の都に、俘虜の身となりし時、ピリピの教會は、贈物をエパフロデトに托して、パウロを撫に見舞はしめたり。其返書として、ピリピの教會に送りしものにて、エペソ書、コロサイ書と、何れも同時代のものたり。

（註）ピリピはグリシャの北にあり、アレキサンドル大帝の父、フォリップ王之を征服して軍事上の殖民地となし、而して自己の名を冠せしめたる地なり。

ピリピ教會は、キリスト教會の先驅者にして、歐州其他の諸教會中の長子とも見るべく、コリント並にガラテヤ教會が、屢々パウロの心を、惱ましたるに反し健全なる教會として、常にパウロに、滿足と希望とを與へたり。故にパウロとピリピ教會との關係は、甚だ密にして、最も能くパウロの眞情を吐露せるは、此書を於きて、他に求むべからず。パウロが如何なる心情を有せしか又彼がキリスト觀を、明細に窺ふを得、之を通して、主キリストの御心を、學ぶを得るなり。要するに、彼は教會に對し、キリストに依る人として、主の心を以て愛したるなり。

今節を分ちて說明せんに、最初の二節は單に挨拶に止まり、三節より十二節迄はパウロと教會との關係

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を示し、十三節より二十六節迄はパウロの境遇と其心情を叙し、二十七節より三十節迄は教會への勸告とも見るべきなり。

(一)パウロとピリピ教會との關係。(三—十二)

イ、深厚なる愛情ありし事、(四—五)

ロ、信仰の上に置かれたる個人的愛情なりし事。(八)

ハ、教會の人々の爲めにする、パウロの祈禱。九—十二)

參照

コロサイ書、(一〇九—十二)

エペソ書、(一〇十七—十九)

同 (三〇十六—十七)

パウロが他人の爲めに、能く祈りし事は人の熟知する處なり。而して恆に彼が、主とし祈りたるは、左の二ツに就きてなり。

イ、靈的智識の增さん事、

ロ、品性の潔められん事、

ハ、神の力の加はらん事、

(二)パウロの境遇と其心情。(十二—二十六)

パウロは性來、獨創的活動の人なり。彼は他の使徒が多くユダヤ人に道を傳へんとするを見、己は離りて、異邦人にのみ道を傳へたり。今身獄窓の裡に在りて、全く活動の自由を奪はれたるは、彼に取りて非常なる苦痛なりしと同時に、彼が幽せられたる地ロマにある教會は、彼以外の人の手に成り、充分なる慰籍を受くる事能はざるに至れり。

イ、パウロ幽囚の境遇より生したる利益。(十三—十四)

ロ、其苦心を訴ふ。(十五—十六)

ハ、パウロの精神的勝利。(十九)

ニ、生死問題の解決。(二十—二十四)

前にも述べたる如く、二十七節より三十節に於ては教會への勸告にして、主に依り一致して堅く立つべしといふ一點に歸着するが如し。元來グリシヤ人は神經過敏の種族なり。從ひて協同一致の精神に乏しく、加ふるに忍耐の德にも欠點ありしが如し。宗教は、此國

民的欠點を打破せざるべからざりしなり。

又二十八節及び二十九節に於て、凡ての事につき、敵に驚かされざらん爲云々とあり。驚は凡て事の眞想を知らざるに基因す、如何なる苦來るとも、只是神の聖旨なる事を信ずる時は些の驚もなかるべし。

此書は初は優しく情を打ち明け、漸時激しき口調と變れるを見る。彼の精神が如何に活動的なりしかは、讀過し行くうちに、明かに認むるを得ん。

第二章　(其二日)

(一)謙遜と一致との精神。(一―五)

人間は自己か短所を、他人の長所として認むる時、自の弱點を省みんとする念起り、玆に謙遜の德を生ずるに至る。然れども、一朝之が惡しく解釋せられんには、卑屈となり、却りて自尊自重の思想を傷くるに至る。宗教上に於ては、人が自分の罪惡を悟り、神の前に悔ひ改むるの心湧き出て、自己の如何に弱き者なるかを明に自覺し、大能者の無限の權威を認識し、謙遜の心生じて、絕對の服從をなし得べきなり。此觀念は延いて他人に對する時、他人の長所美點を、明かに觀察するを得せしむ。

(二)キリストの心。

イ、謙遜。

ロ、完全なる柔順。

ハ、之に對する神の報。

キリストの謙遜は、主が神の榮を棄てゝ、僕の貌を取り給へるは、之大なる謙讓なり。又十字架は柔順の絕頂なり。故に神は甚しく彼を崇めて、諸々の名に勝る、名を與へ給へり。

報を受けずといふは、余りに超自然的なり、佛敎的なり。キリスト敎にありては、自然的人情に從ふて、要求するなり。

(三)キリスト敎徒の心

イ、主の謙遜從順に倣ふべき事。

ロ、神の內部的感化を受くる事。

ハ、世の光の地位にあるべき事。

ニ、パウロの勞苦を空しくせざらむ事。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

(四)テモテの事。(十九—二十四)
テモテはパウロと、師弟の關係を結び、キリストのヨハネに於ける如く、最も愛情濃かなりしものなり。
(五)エパフロデトの事、(二十五—三十)
エパフロデトは前にもいへる如く、パウロをロマに訪ね、暫く止まりて主の爲めに働ける時病に犯されぬ然るに此事敎會に聞えたりと云ふを聞き、彼は敎會を懐ふの情に堪えず、遂に望郷病(ホームシツク)を起したるを以て、パウロは彼を送り歸しぬ。此所を以て、いかにピリピの敎會が親睦し、聖徒の間柄の美はしかりしかは、推して知るべきなり。

●腓立比書第三章

丹羽清次郎先生講義

第三章の言葉を、各一節づゝ委しくお話し申上ぐる事は、時間の都合のため出來兼ねます故難節と思ふ節を説明したいと思ひます。

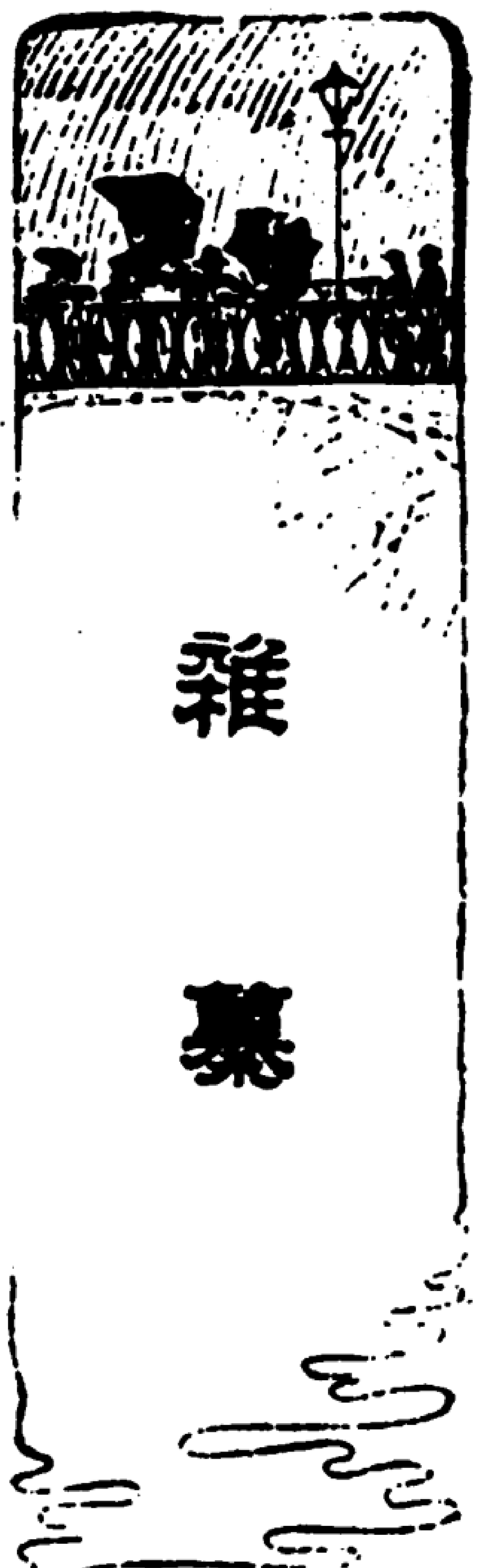
先づ、第一章第一節のはじめの句「終に我これを言はん」につきてお話し致します。是の句に依つて見ますと、最早パウロがピリピ人に送る手紙は僅かにして其の終りを告ぐる筈でありますのに、尚長たらしく四章迄書いております。

全體是れ迄の經驗に依りますと、手紙の終りに追伸亦追伸として、長たらしく書くのは屢々婦人に見るところでありますが、それならばパウロは婦人の樣な人てあつたかと申しますに、決して左樣な事はありません。パウロは心の活潑な人でありました故、この手紙を書く間にも、種々新らしい思想が浮び來たのに相違ありません。又さなくば、何か他の新らしい事柄が湧いて來たのだと思ひます。

元來此の手紙はパウロが牢屋に居つた時ピリピ敎會の人を愛慕して書いた手紙であつて、豫め書くべき條件を定めて置いたといふでもなく、所謂「ナグリ書」であります。が、此手紙ほどポウロの心にある喜悦と亦多くの寶の秘められたる書は有りません。特別同じ腓立

比の中でも三章は大切なる部分でありまして、今若しこれを自然の景に較へて申してみますと、裾野或は富士の絶景の様であります。その三章の内で又抜んでて美い句は三節「そは神の靈(みたま)に由て役事(つとめ)を成しキリストイエスに由つて誇り云々ーであります。キリストイエスを救主とし且又光として凡ての事を行ひ、又キリストに依つて以て誇とすること。尚この節に美觀を添ふるのは第二十節ー二十一節であります。「われらの國は天に在りわれらは救主即イエスキリストの處其より來るを待つ。彼は萬物を己に服はせうる能(ちから)に由てわれらが卑き體を化て榮光の體に象(かたど)らしむべし」是の節を讀みて初めて、第三節の言葉の如何に有難きか、又如何に尊きかを理解することが出來るのでありますその美はしき事は、恰も朝霧に包まれし富士の高根が空吹く一陣の風にしばし其の影を現はして、朝日に向つて微笑している姿のごとく、又黄金色なす夕日を眞面に受けし尊き姿のそれのやうであります。

第八節ー十一節の間には、キリスト、イエスに由つて誇り云々の事が委しく記されて居ます。



サアリヤの女

柏井園氏述

七月十三日午前求道者の爲め設けられたる聖書研究會に於て、講師植村牧師は約翰傳第四章中特にキリストとサマリアの一婦人との遭遇につきて、話題を撰まれたり。

書上に示されたるか如くキリスト其女に水を請ひし時、女は彼の渇苦をも省みず、要求を入れず却て之に換ふるに疑問を以てせる。實に彼は一見にして此の女の憐むべき境遇、悲むべき性狀を知れり。然れども、この間によりて尚其心中に一點の嘉すべき好奇心あるを認め、之によりて女を導かんと試みたり。即ち、汝若し我の誰なるかを知つて、吾に求めば活ける水を與ふべし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と。活ける水とは宗教を指せること論を俟たず。而して彼淳々說くに及んで女の好奇心も漸く高まり、遂に之を求むるに至るや、キリスト更に命じて曰く「然らば汝の夫を呼び來れよ」と。彼はこの墮落せる女が、眞の夫と稱すべきものを存せざるを知れるが故に、彼女をして自らその悲運を感知せしめんと試みしなり。ここに於て女始めてその不幸なる境遇又恐るべき罪惡を悟り、遂に彼を信じ求めて、信仰を生ずるに至れり。而してキリスト、ユダヤよりガラテアに赴くにサマリア内の此地方即ちユカルを通行してこの機會を持つに至りしも亦悉く神意によりしものならん。

吾人の信仰に趣く道も亦實に斯の如し。善き好奇心を以て諸種の疑問を發すること固より根本的必須の條件なりと雖も單に之のみを以て足るものに非ず。一歩進んで、着實に自己の罪惡を、或は指導或は反省によりて意識し得ば、以て眞にキリストの救、贖罪、眞理を悟り得て、完全なる信仰に進み入るを得べし。これ求導者たるもの丶輕視すべからざる點なりとす。

植村先生の說教を聽く

菊池みとり

神よ、我等の罪を赦せ、この題目の下に、植村先生の爲されたる講演は、如何に深熱手なる感激を妾の心に與へしよ。

明かに自白す、妾は今日まで法律上の罪を知り、道德上の罪を知れども、宗教上の罪を知らざりき。唯人に對する罪の畏るべきを知りて、神に對する罪の更に畏るべきものあるを知らざりき。宗教上の罪即ち神に對する罪の畏るべきを知りしは、實に此講演を拜聽せし時にありき。古歌に、

　無きなどと人には言ひてありぬべし
　　心に問はゞ何と答へん。

心は猶欺くべし、神は欺くべからず、何人か能く神に對して、我れ罪なしと斷言し得るものぞ。全能なる神の御眼より看るときは、我等人類は、實に罪惡の府なるかな。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

法律上の罪は、國法之を左右すべく、道德上の罪は良心これを左右すべし、宗教上の罪に至りては、神の愛と力とに頼るに非らずんば、竟に奈何ともすべからず、我等一たび人類の罪を感知すれば、眞の神を信ぜるの念、油然として起らざるを得ざるなり、ア丶神よ我等の罪を赦せ。

妾は從來不幸にして神の教を聽くの機會に接觸すること極めて少かりしものなり。今や幸に此機會に邂逅しぬ。願くは此より一意專心、諸姉の後に就きて努力する所あらん。

夢

堺　伊代子

吾れ一夜夢む。

惟見る茫々たる碧空、下、人界を望めば眇として一點の黒子の如く、上、九天を仰げば星月の光輝閃爍眼を眩す。

忽然樂起る、瀏喨大氣に滿つ。顧みれば白衣金冠の天使金管玉柱を奏しつゝ吾れに近ける也。靈翼微風を驅つて彼等は遂に吾が旁に來れり。歌ふて曰く、

「かゞやく光に　つゝまれ乍ら
平和と愛との―　花さくさとに
流れてつきせぬ　めぐみをくみて
みかみをたゝふる　たのしみいかに」

噫、吾れは天國に昇れる也。

暫にして夢醒めぬ、四顧すれば陰陋なる吾が室は、例によりて塵埃席に滿づ。

昔　後醍醐天皇は夢によりて正成を召され、北條早雲は之れによりて上杉氏の滅亡を予測したりと云ふ、吾が夢も奈何ぞ意味なしとせんやと、切に其の解釋に苦めり。遂に通ずる處あり。

吾れ書を讀みて修養の爲に獲し處大也。吾れ伶人の奏樂を聞きて强き靈感に打れし事屢也。吾れ嵯峨たる山を見て心を壯にし、洞々たる淸流を觀て情を淸くしたる經驗も亦甚罕なりとせず。然れ共是等は猶吾が夢に羽化上天せしと等しく、醒むれば書の淋樸なる一小

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

舍なり。惟ふに眞に吾れをして救の道に辿り入らしむるものは、決して自然の美に非ず、書物に非らず、又牧師の說敎にも非る也。

然らば吾人は何によりて救に入るを得るや。吾れは唯之を經驗による信仰の練磨に俟つ可きなりと斷言するを憚らず。浩然の氣を說明せる孟子の言は移して以て吾人の標語とするに足る。曰く

其爲ㇾ氣也。至大至剛。以ㇾ直養而無ㇾ害。則塞ニ于天地之間ニ。其爲ㇾ氣也。配ニ義與ㇾ道。無ㇾ是餒ㇾ也。是集義所ㇾ生者。非ニ義ー襲而取ㇾ之也。行有ㇾ不ㇾ慊ニ於心一則餒矣。

近頃口に神を讃めて、行には神を汚すもの往々にして之あり。假にキリスト七回世に下り給ふとも、此輩の救はるゝ日は來らざるべし。豈戒めざる可けん邪。

通信記事

盛岡市基督敎女子青年會通信

盛岡市基督敎女子青年會の如何にして發起りしかを述べんに、最初タッピング氏の令孃の浸禮敎會の女子青年に語らるるには我古鄕亞米利加は勿論東京にも基督敎女子青年會ありて青年女子の靈魂を救ひつゝあるを知る。然れど盛岡にはかゝる機關あるを耳にせず、故に我等も基督敎女子青年會を發起して、此盛岡市にある幾多の亡ぶる青年女子靈魂を救はん。蓋し之れ我等の義務なりと。此に於てか基督敎女子青年會は發起せられたるなり。盛岡市基督敎女子青年會の本年三月十七日に發會式を擧げしより同じく七月七日に至るまでの略歷を述べんに、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

抑も盛岡市基督敎女子靑年會は盛岡市に生れて以來七月七日に至るまで會を開きしこと八回に及べり。此盛岡市基督敎女子靑年會は最初重に浸禮敎會の女子靑年より組織せられしを以て、浸禮敎會の女子靑年會なりき。從つて會員の數も少なく二十人に足らず、第一と第三の日曜日に會合を開くのみにて誠に不完全なりき。然れとも不完全ながら會をつゞけ來れり。

二三回會を開きし以後に敎會の女子靑年即ち浸禮、美以、一致、合同せり。其れより以來は、以前と異なりて會員が多く增加し、凡てのこと完全に趣くに至れり。是に於て名稱を盛岡市基督敎女子靑年會と改稱せり。

先には會員十七八人、其中正會員は五人計りなりしも、今は會員數六十名、其中正會員は二十名となり會員の多く集るときは三十名、少なきときは十五六名なり。

先には女子靑年會としての働きなかりしが、今は女子靑年會より毎日曜日一日づゝ孤兒院に趣き孤兒院傳導をなし、或は病院に花を持ち行きて病人を慰撫して病院傳導を助くるなどの活動を始む。而して第一と第三の日曜日をのぞくの外は聖書硏究會を開く。

先には會長、副會長、書記、會計の役員を設けしが今は此の外に、

會員委員長　音樂委員長
會計委員長　集會委員長
書籍保管委員長　孤兒院傳導委員長
病院傳導委員長　敎會補助員

を增加せり。上閉伊郡遠野に支部ありて、時に會長の出張する事あり。

嗚呼以前と現今との差異斯の如く大なり、是より神の御惠によりて層一層、此盛岡市基督敎女子靑年會を盛大にして以て世の中に多大の益を與へん事を期す。

明治四十年七月八日

盛岡市基督敎女子靑年會

東京基督敎女子靑年會御中

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

YOUNG WOMEN
OF
JAPAN

Vol. IV *September. 15th, 1907* *No. 8*

Miss M.A.Whitman, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss A.G.Lewis, Secretary
Miss Sarah Ellis, Treasurer
Miss Michi Kawai, Active Member of the World's Committee
Miss Michi Matsuda, Editor of "Young Women of Japan."

Resident Members	Non-resident Members
Miss Ume Tsuda	Miss K. Tristram, Osaka
Mrs. Hatsu Watanabe	Miss L. Hamilton, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. V.W.Helm, Kobe
Dr. Tomo Inouye	Mrs. G. S. Phelps, Kyoto
Mrs. G. M. Fisher	Miss E. M. Soper, Nagoya
Miss Hama Hirano	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Miss Sumi Miyagawa	Miss L. Zurfluh, Sendai
	Miss M. Brownlow, Hakodate

Miss A. Caroline Macdonald,
General Secretary
Miss Stella Fisher,
Assistant Secretary

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN

If ye abide in my Word, ye shall know the Truth, and the Truth shall make you free. John VIII. 31, 32.

Vol. IV *September, 1907* *No. 8*

CONTENTS

LECTURES :—

The Christlike Life............Rev. M. Uemura
The Heroic and Self-sacrificing Spirit............
........................Sherwood Eddy (India)
Comments on the I and II Chapters of Philippians..........................E. Kashiwai
Comments on the III Chapters of Philippians...
... .S. Niwa

MISCELLANEOUS :—

Jesus and the Samaritan Woman....E. Kashiwai
Transgression against God............M. Kikuchi
A Dream,..............................I. Sakai

ASSOCIATION NOTES :—

東京神田美土代町三秀舍刊

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA